

## 涙の流速について

小幡曜

たまに泣いてしまうときがある

目をこすつてみると

涙の軽さに驚く

眺める涙はもつと重かつたはずで

顔の縁をつたうことさえできなかつた

涙

川で化石を探している、その胃の中から  
水の音がする

瓢箪の内に溶けていくように、

冬の川の含意が聞こえた

ヒンヤリとしたものに手首を撫でられて  
血を遡上していく

(血縁者の軽微な水難がモンタージュされる)

背中をひとしきり冷たいものが滴つたあと

河川敷の焚火の痕が息を吹き返し

埋められた不法投棄の自転車が這い出てくる

感情が感情の淵をなぞつていく

だから、すこし泣いていた